

雪たね優良品種の紹介

ハイブリッド・ライグラス

テトリライト

—耐雪性が強く、東北、北陸地方の裏作に最適—
—越夏性が強く、温暖地の混播草地に好適—

テトリライトは、イタリアンライグラス×ペレニアルライグラスの交配種子を、コルヒチンによって4倍体として、その後サビ病および耐寒性〈耐雪性〉に強い個体を選抜して得られた新品種です。

◎ 千葉研究農場（千葉県）の試験成績

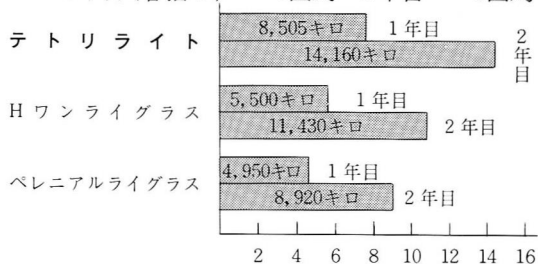
① 1年利用の場合

(昭47～48)

品 種 名	生 草 収 量 (10a当りkg)							合 計	比 率
	I 3月23日	II 4月18日	III 5月11日	IV 6月4日	V 7月3日	VI 9月18日	VII 10月20日		
マンモスA	1,350	2,940	1,740	2,205	2,475	1,440	1,680	13,830	100%
テトリライト	1,095	2,760	2,160	1,920	2,490	1,365	1,620	13,410	97
ワセヒカリ	855	2,040	840	1,455	1,230	—	—	6,420	46
ヒタチアオバ	1,275	2,490	1,650	2,070	2,040	675	735	10,935	79
ヤマアオバ	1,260	2,145	975	1,800	2,025	750	735	9,690	70
普 通 種	1,275	2,355	1,005	1,710	1,275	—	—	7,620	55
Hワンライ	990	2,040	600	1,575	1,845	810	690	8,550	62

② 2年利用の場合 (昭46～47)

1年目(春播き)……6回刈 2年目……8回刈



◎ 北陸農業試験場（新潟県）の試験成績より抜粋 (昭48～49)

品 種 名	乾 物 収 量 (10a当りkg)			合計	比 率
	1 番 草 (10月29日)	2 番 草 (5月20日)	3 番 草 (6月13日)		
ワセアオバ	160	51	42	253	89%
マンモスA	149	43	91	283	100
テトリライト	116	68	154	338	119
ワセヒカリ	120	6	12	138	49
オオバヒカリ	158	—	9	167	59

〈1〉温暖地の混播草地に好適

越夏性および多収性は、イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス品種中で最高級にランクされます。1年利用の場合は、マンモスAよりやや低収ですが、葉長葉幅もマンモスAに類似し、夏～秋にかけて再生良好です。

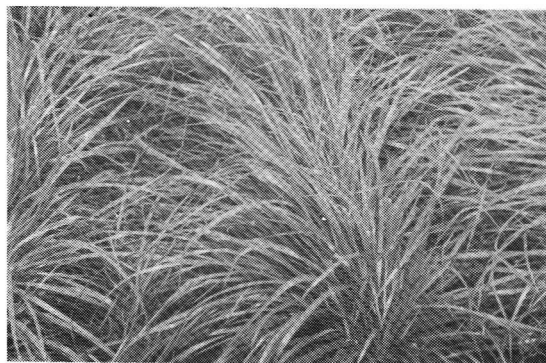
また2年利用の場合は、Hワンライグラス、ペレニアルライグラスよりも優れて

おり、温暖地の混播草地(採草地、放牧地)に好適し、2～3年利用の収量向上に効果的です。

〈2〉積雪地帯の裏作用品種として最適

北陸農試の試験成績から、年内刈りの収量はイタリアンライグラス品種に及ばないが、越冬性は最良であり、春の収量は抜群であることが明らかです。秋田県、青森県においても、テトリライトは耐

雪性が強く多収で、また札幌市周辺でも越冬することが確かめられています。多雪地帯における裏作用品種として注目されている新品種です。



草丈高く、茎葉巨大、分けつ力・再生力とも旺盛なテトリライト